

子供宝也

No.11

平成 26 年 5 月 30 日

尼崎市立武庫東小学校 校長 大楠正治

***すみません。12号を先に配ってしまいました。**

いいところ見つけ：3年4組

3年4組の廊下の壁に「いいところ見つけ」というのがはってあります。「これは何？」と担任の先生に聞いてみました。

「月が変わる頃に席換えをして、それに合わせて班が変わります。そのタイミングで、前の班の子どもたちの「いいところ」を見つけて、星形の紙にその子宛てのメッセージを書いてあげるのです。」その後、廊下を歩いていくと、いろいろなクラスの壁にもありました。どうやら、学年全体で取り組んでいるようです。

認められることほど、子どもを元気にする良薬はありません。悪いことをして叱られても、一方で必ず自分を認めてくれる、そんな存在がいるなら、叱られたことも素直に心に入っていくでしょう。いくら喧嘩をしたって、その相手がどこかで自分を認めてくれている存在であるなら、仲直りも早いでしょうし、その関係がよりよいものになることだって考えられます。いろいろな個性の子どもたちが混在する【学級】。【学級】がうまく機能し、お互いに認め合うような雰囲気がある時、【学級】は子どもたちにとって居心地のいい場所になります。不登校やいじめをなくしていく一つの方法かもしれません。

友だちのいいところがいっぱい見つけられるような子どもに育ててほしいですね。私自身も、子どもたちや先生のいいところを見つけられる校長でありたいと、あらためて思いました。

パチパチ：4年2組

4年2組は計算科の時間でした。いろんな質問も飛びだして、みんな、一生懸命です。今日は、8級の検定の練習があるのです。

20分間で見取り算、かけ算、わり算の300点満点。210点が合格ラインです。ただ、一つでも50点以下だと不合格になってしまうのです。「見取り算を全部やってからかけ算というようにやってしまうと、最後の割り算の時間がなくなってしまいます。見取り算を6問やったら、次にかかけ算を7問やって…というような作戦も必要ですよ。」…なるほど！！

始まりました。すごい集中力です。教室のなかにパチパチというそろばんの乾いた音だけが心地よく聞こえてきます。「いいなあ。」と思って教室を出ました。結果はまた今度聞きたいと思います。

驚きました！！：2年2組

図書室では、2年2組が読書の真っ最中でした。スゴイ！！とても集中して、読書に浸っているという感じでした。1年生の時とはぜんぜんちがっていてもものすごい成長です。

図書の時間は、先生による10分間ぐらいの読み聞かせから始まります。今日は、みんなの大好きな「くれよんくろくん」でした。家にある子どもも多く、人気の本のようにでした。私も読みましたが、「ええ話やなあ。」と思いました。

低学年にとって、45分間集中して読書をするのは、大変なことです。この読み聞かせがあるにしても、読書の仕方は立派の一言です。立ち歩きなし。黙って、静かに、いい本をたくさん読んでいました。